

子育て支援を地域で考える

合計特殊出生率
1.29。さあ、大変！

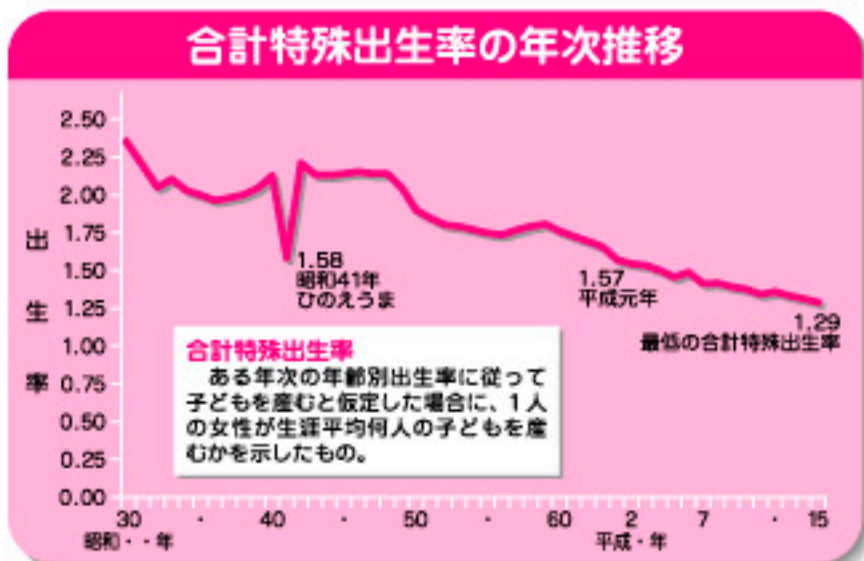
とはいえ、少子化は今に始まったことではありません。「1.57ショック」と騒がれ、国が少子化対策としてエンゼルプランを打ち上げ、「子育て支援」を位置づけたのは15年前でした。しかし、出生率は下がり続け、今に至りやと国民的な課題となりました。数年後には、超高齢社会を迎える日本社会にとって、年金問題と絡み、少子化が子どもと子どもを持つ家庭の問題だけではない、と実感できたからでしょうか。

平成15年には、少子化社会対策基本法、次世代育成

支援対策推進法が
相次いで施行され

ました。基本的には父母その他の保護者に子育ての第一義的責任があるとしながらも、地域社会全体で子どもを育てることの重要性が記されています。

子育てを母親一人の責任では負いきれない、子育てしにくい、子どもが育ちにくい時代・社会背景の中、子どもの健やかな育ちを支えるためには、社会全体で子どもを見守り、責任を持って育て合う地域づくりが求められています。みんなで子どもの育ちをサポートする、そんなまちづくりを考えましょう。



安心して子どもを産み育てる

昔……といっても50年くらい前は、赤ちゃんは自宅で産むものでした。しかし、今では、病院で出産するのが当たり前と考えられるようになりました。病院以外で出産するケースは、1990年頃の倍になったといわれるものの、医師の診断によっては、自宅出産が出来ない場合もあり、全出産のわずか0.2%程度です。

今年3月に自宅出産を体験した女性は、おっぱいを飲んでる赤ちゃんを優しく見つめながら、たくましく力強く語ってくれました。

自然分娩が流行って、私は2回も体験しました。どこが自然かというところ、薬や特別な道具は使わず、赤ちゃんが出てくるのをじっくり待つ、そしたら産んだ後の身体がすごく楽なんです！
陣痛に耐える私の手をずっと握ってくれた助産師さんは、「しんどいね、がんばって」と穏やかで優しい方でした。夫と2歳になる上の子とお義母さん……一緒にいて私が安心できる人たちに見守られながらの出産は、とても幸せな時間でした。さらに、胎盤がすごく綺麗で、女性の身体って神秘的だなあ、って自宅出産は自分の身体を知るチャンスでもあったんです。動物と同じように、自分の力だけで産めるんだ。そう思うと、なんだか不思議な自信と安心に満たされました。いろんな出産方法があるけど、私はお産を楽しんじゃいました。

なぜ子どもが産めないの？

日本の子育ては孤立しがちだといわれます。ここに紹介するのは市内に住む若い母親の声です。

5歳の子どもの子育ては大変です。父親は仕事で帰りが遅く、祖父母も仕事を持っているので、育児は母親がするしかありません。子どもがもっと小さい頃、どこか、少しの間でも預かってもらえる場所はないか悩んだ時期がありました。専業主婦を助けてくれる人はいなかったし、誰にも相談できなかった。二人目の子どもは考えられません。

一緒にいるだけで大変な赤ちゃん、自由を束縛する存在、のしかかる母親としての責任、その大変さを共有できない夫、口を出す親戚や知人。様々なストレスが母親たちを自分だけではもう対応できないという限界に追いやります。無力感、自責感、助けてもらえないという孤立感に陥り、ダメな母親という脅迫観念から、ますます家の中に閉じこもっていくのです。子育てをしたことのない人、特に男性にとっては想像できない世界かもしれません。

物言えぬ子どもたちだけでなく、援助を求める声さえ上げられない母親たちが必要としているサポートとは、どういうものなのか。孤立を防ぎ、地域社会と自然に関係性ができるようなコミュニティが求められているのではないのでしょうか。

子育てを楽しもう！

子育ては母親の仕事という考え方が未だに根深いようですが、子どもや親を取り巻く環境は大きく変化しています。夫婦が持つ子どもの数の調査では、若い世代で産もうと予定している子どもの数が減り、産みたい理想の数との差が広がっています。また、一人っ子や、子どもを持たない夫婦が増えており、実際に産んだ数はさらに少ないようです。

そんな中、丸亀市は県下で2番目に高い合計特殊出生率1.70を維持しています。丸亀で子どもを産み育てようとする市民がもっと増えるためにも、今こそ多様な子育て支援に取り組まなければならない時なのです。「子育てするなら丸亀市！」と言われるような、子どもたちの笑い声が溢れるまちにしたいものです。



こんな子育て支援を知っていますか？

私たちの周りでも、様々な子育て支援が行われています。近くにあっても、誰でも参加できる子育てサークルを紹介します。一度のぞいてみませんか？

- 親子クラブわいわいKid's (キッズ)
活動場所・ひまわりセンター
活動日時・毎週火・金曜日(10:00~11:30)
連絡先・岩田理香(TEL23-7628)
*大人だけでも参加できる、わいわいMrs(ミッシーズ)もあります。
- NPO法人地域は家族・コミュニケーション
活動場所・ひまわりセンター
活動日時・週1回
連絡先・高木明美(TEL24-2176)
*「子育て・思春期コミュニケーション」、「そだって・チャレンジくらぶ」など
- 丸亀子ども劇場
活動場所・生涯学習センターなど
活動日時・月数回、年間5~6回の観劇活動
連絡先・丸亀子ども劇場(TEL25-0691)
*毎月1回、アートスクールをやっています。
- 親子リズム小組
活動場所・蓮池公園軽運動室(外遊びの日も有)
活動日時・毎週木曜日(10:30~12:00)
連絡先・井上(TEL090-5276-0549)
- NPO法人わははネット
活動場所・わはは・ひろば(坂出市元町商店街)
活動日時・毎週月~土曜日(10:00~16:00)
連絡先・中橋恵美子(TEL44-9055)
*情報紙「おやこDEわはは」発行
携帯メール配信サービス「わははメール」
メールマガジン「メルマガDEわはは」発行

丸亀市は子育てを応援しています

待機児童0を目指した保育行政、全小学校における留守家庭児童会(青い鳥教室)事業など、子どもの健全育成に取り組んでいます。

ひまわりセンターでは、下のような遊びの広場を行っています。また、各地区コミュニティセンターでも、遊びの広場や個別相談を行ったり、母子愛育班が様々な活動を行ったりしています。

ひまわりセンター 市健康課TEL24-8806

- ちびっ子広場
乳幼児対象
(月2回)
- プチかめ広場
0歳児対象
(月1回)
- 亀っ子広場
子どもの健康に関する学び
(年間5回程度)



3か月児健診の会場にて
ボランティアによる絵本の読み聞かせ

多文化共生の視点から…

現在丸亀市には、外国人登録の数だけで1,000人を超える外国人が暮らしています。中には、ほとんど日本語の話せない方もいます。また、日本人と結婚している外国人女性の場合、親(いわゆる舅姑)の世代が当たり前持っている「嫁」意識など、文化の違いから日本人以上に確執となるケースも多いようです。そういう方の子育ては、誰がどうやって支えているのでしょうか。丸亀市国際交流協会の方に何ってみました。

「問い合わせがあれば、乳児医療・児童手当・保育所などの申請や申し込みにつき添ったり、予防接種や市からのお知らせなどの通訳や翻訳をしたりしています。様々な国や地域の方の言語を全てカバーするのは、かなり難しい状況ですが、市健康課では、市内に住むフィリピンの通訳の方のご協力を得て、外国人を対象に乳幼児の食事講習をしたこともあるようです」

障害児にも…

善通寺市総合会館の向かい側の民家にNPO法人「子育てネット くすくす」があります。子育て広場(つどいの広場)としてフリースペース、ワークスペース、ちょっと預かり事業などをしています。この4月からは、児童デイサービス「すまいる」が始まりました。ここでは昼間、0歳から小学校卒業までの障害のある子どもたちが過ごしています。養護学校から下校後通っている子どももいます。

障害児の居場所としても、障害のあるなしにかかわらず仲間とともに集い、みんなで子育てし、子どもたちが育ち合う場としても、ぜひ丸亀にも欲しいですね。